

おごせ 教育 Pick Up



越生小学校

10月31日、5年生が川口スキップシティで、映像に関する学習を行いました。子どもたち自身がカメラやスイッチャー、録音機器などを使ってニュースを作る体験で、キャスターをした児童は「緊張した」と言っていました。

梅園小学校

11月11日に保護者や地域の方を迎え、校内音楽会を実施しました。どの学年も今までの練習の成果を発揮し、素晴らしい合唱・合奏を披露してくれました。人数は多くなくとも、一人ひとりが心を込めた演奏を行い、聴いている人たちの心に豊かなハーモニーを響かせました。



越生中学校

10月28日、合唱コンクールが行われました。今年のスローガンは「繋ぐ268人の絆～その一瞬を謳歌せよ～」。一人一人がクラスの仲間との絆を思いやり、全力で声を出し、心に響く美しいハーモニーを体育館いっぱいに響かせました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子どもたちを写真で紹介するコーナーです。

ズームイン教育246

学力向上への 取り組み

越生町教育委員会

今年度の国と県の学力調査結果について、越生町の子どもの傾向をお知らせします。

1 全国・学力学習状況調査

対象 小学6年・中学3年
教科 国語A、国語B、算数・
数学A、算数・数学B(A
は知識、Bは活用に関する
問題)

● わかったこと

小6 ○国語の「文章を書くための基礎的な力」が身についている。

○算数の「分数」の内容が十分に身につけていない傾向がある。

中3 ○国語の「文章の構成を考えて書く力」が身につけていない。

○数学の「関数」の内容が十分に身につけていない傾向がある。

2 県・学力学習状況調査

対象 小学4年・中学3年

※一昨年から伸びを見る調査教科 国語、算数・数学、英語
※英語は中学2、3年が実施

● わかったこと

小4・小6 ○昨年からの学力の伸びは見られるものの、国語の「読みと理解する力」、「文章の構成を考え書く力」については、十分に身につけていない傾向がある

中1・中3 ○国語の「読みと理解する力」が身につけている。

○英語で「自分の考えや気持ちなどが伝わるように書く力」が十分に身につけていない傾向がある。

3 これからの目標

調査結果を踏まえ、次のように取り組んでいきます。

◆「わかる」「できる」まで徹底した授業の展開

基礎・基本となる内容は、小テストや繰り返し学習などを活用し、すべての子どもたちが見つけられるようにします。

◆本に親しむ

朝読書や読み聞かせの充実を図り、読書の習慣が身につくような取組を行います。

◆より外国語に親しむ

新学習指導要領では、小3から外国語活動が始まり、授業時数も増えます。さらに充実した指導体制を検討します。

越生浪漫

No. 107

越生にのこる
愚禪和尚の書跡



龍穩寺総門の額：署名「愚禪八十八書」

江戸時代の名僧、能書家として知られる愚禪和尚は、享保18年（1733）、丸貫村（現吉見町）の内野家に生まれました。羽尾村（現滑川町）の須沢家へ養子に入り、同地の曹洞宗興長禅寺で出家、諸国



龍穩寺山門(天保13年(1842)建立)の山号「長昌山」の額(伝愚禪書)

玄透は龍穩寺晋山前は、備中円通寺（倉敷市）の住職で、玄透の前住は良寛和尚の師、国仙和尚です。永平寺との紛争を解決後、愚禪は武州に戻り、原島村（現熊谷市）に福王寺を開山、文政12年（1800）

を行脚後、同寺の住職になりました。寛政元年（1789）には、加賀大乗寺（金沢市）の住職に迎えられました。当時、大乘寺は本山永平寺との宗教論争の最中にありました。論敵の永平寺五十世玄透即中は、龍穩寺住職を経て永平寺貫首に昇進した、宗史に名を留める傑僧です。ちなみに、



鹿下の馬頭観音：左下に「九十六翁愚禪」の署名がある（文政13年建立）

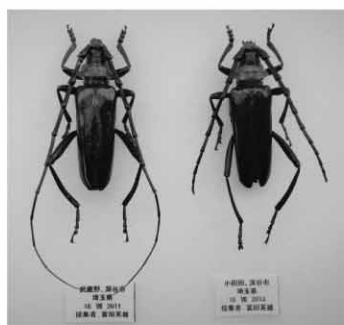
29)に97歳で示寂しました。軸、額、石造物など、その書跡は関東一円に残されており、計152点が確認されています。（※平成5年現在。長沢四朗氏による）。得意とした「龍」の一幅を掛けると怒ち雨を呼んだ、など、数多くの逸話も伝えられています。

2014年2月号のこのページで、ナスの葉を食べる体長2ミリほどの小さな甲虫が昆虫館に持ち込まれた話を書きました。この小さな虫は、2011年に高崎市で発見された北アメリカ原産の外来種、タバコノミハムシでした。今回は、同年に埼玉県深谷市で発見された、中国大陸原産のクビアカツヤカミキリを紹介しましょう。このカミキリムシで最も重要なことは、サクラ、モモ、ウメなどのバラ科の樹木を幼虫が食い荒らすことで、大型種のため、その被害は甚大です。本種が問題となったのは、2012年に愛知県で、その翌年に埼玉県草加市でサクラの被害とともに発見されたことに始まり、現在は関東から四国までの太平洋側の数

おごせ 昆虫と自然の館 通信 No.66

要注意の大型外来種
クビアカツヤカミキ

「コウチュウ目カミキリムシ科」



クビアカツヤカミキリ深谷市の個体
左：2011採集♂、右：2013採集♀

都府県で確認されています。この被害発見とは別に、2011年7月18日に深谷市で本種が採集され、元愛媛大学の大林延夫教授に送られていたことが判明しました（今年深谷市でサクラに被害が出ています）。この標本は、前記した湾岸の愛知県や東京湾に近い草加市での記録とは異なつた、内陸部での発見であり、本種の侵入時期はこれまでの想定よりかなり前であることの証拠となります。現状では、越生町での発生は確認されていません。埼玉県農林部と環境部では、サクラやウメなどの樹幹の食害「木くず」や、大型で首の赤いカミキリを発見した時には、関係機関への報告を呼びかけています。

（江村 薫）